

中部ドイツ空港株式会社- ヨーロッパの中心から新たな地平線へ

中部ドイツ空港株式会社は2000年の設立以来、中部ドイツの州と地方自治体レベルにおける政治、行政、経済間協力の成功例とされています。中部ドイツにある二空港の強力な提携関係は国際的企業が拠点を選ぶ際の重要な決定要因であると共に、地域経済を強化するものでもあります。

中部ドイツ空港コンツェルンの2006年度の営業収益は計9,240万ユーロ、航空機発着回数は79,760回、航空旅客数は419万人、貨物取扱量は39,954トンでした。直属の従業員と職業訓練生の人数は903人。同社の拠点が置かれる各地の企業や役所には計4,500人が就労しています。

集約された経営

ライプチヒ・ハレ空港有限会社、ドレーズデン空港有限会社、ポートランド有限会社とイースタンエアカーゴ有限会社の子会社4社と共に、中部ドイツ空港株式会社は双方の空港におけるインフラを経済的かつ顧客志向に築くことに成功してきました。その成功の主な要因は、一貫した企業戦略です。中部ドイツ空港株式会社の組織構造は、資本の効率的な利用と戦略上の首尾一貫性を保障し、関連企業間の相乗効果をはぐくむものです。

発展の構図

ザクセン州とザクセン＝アンハルト州による二州志向かつ持続可能なインフラ政策を裏打ちするのは、空輸部門における優れた地位の確保に加え、ライプチヒ・ハレ空港とドレーズデン空港を通しての、ヨーロッパや世界経済の中心地へのアクセスです。

2007年7月、ライプチヒ・ハレでは長さ3,600mの南部滑走路と、同じ長さの大陸間運行用の北部滑走路が完成しました。ドレーズデンでも滑走路の延長・再建工事が2007年に完了することで、双方の空港は今後の空輸の成長に万全に備えています。多くのヨーロッパの空港にみられる、離陸や着陸の発着枠(スロット)の混雑はありません。2006年11月の連邦行政裁判所の決定で、ライプチヒ・ハレ空港はまた、24時間運用可能な国際貨物ハブ空港となることが決まっています。

会社情報

株主

| | |
|-------------|--------|
| ザクセン州 | 76.64% |
| ザクセン＝アンハルト州 | 13.58% |
| ドレーズデン市 | 2.52% |
| ハレ市 | 5.16% |
| ライプチヒ市 | 2.10% |

監査役会

(2007年12月現在)

会長：

- ヴィリー・ヘルムゼン、元空港長

副会長：

- カール - ハイッツ・ピーゾルド、被雇用者代表、ヴェルディ労働組合
- カール - ハイッツ・デーレ博士、ザクセン＝アンハルト州州開発・運輸相
- スタニスワフ・ティリヒ、ザクセン州財務相

委員

- イエンス・ブラーヤーン、ザクセン＝アンハルト州財務相
- デイルク・ヒルバート、州都ドレーズデン市経済局局長
- ブルクハート・ユング、ライプチヒ市市長
- トーマス・ユルク、ザクセン州経済・労働相

- ディートマ・カストナー、REWEパッケージ旅行社社長
- クラウス・レップレ、ドイツ旅行代理店連盟会長
- ラルフ・ラントグラーフ、ライプチヒ・ハレ空港有限会社被雇用者代表
- ヨルク・ベーゲ、ドレーズデン空港有限会社被雇用者代表
- ダグマー・サバドス、ハレ市市長
- ローラント・タイヒマン、ライプチヒ・ハレ空港有限会社被雇用者代表
- フランク・フォルブレヒト、ドレーズデン空港有限会社被雇用者代表

ライプチヒ・ハレ空港有限会社

ヨーロッパの中心から一貫輸送の利点 - 乗客と貨物にチャンスをもたらす空港



ライプチヒ・ハレ空港は、拡大しつつあるヨーロッパの中心に位置し、中央ハブ空港として、国際旅客運輸と物流経済に必要なすべての条件を満たしています。24時間稼働体制、全天候型でそれぞれに3,600mの長さの並行滑走路システム、十分に余裕をもった発着枠（スロット）、空・陸・鉄道による輸送（複合一貫輸送）の便を必要とする企業のための開発予定地がその例です。これらの利点に加え、成長力ある経済圏に位置するという立地条件は、ライプチヒ・ハレ空港をドイツの中で魅力ある空港にしています。それは、従来の定期航空便航空会社のみならず、当地で増加の傾向にあるローコスト航空会社にも認められていることです。空港の南・貨物部門は新しい企業の誘致によって拡大しつつあります。

代表取締役：エリック・マリツケ

出資者：

| | |
|-------------|--------|
| 中部ドイツ空港株式会社 | 94.00% |
| ザクセン州 | 5.25% |
| ライプチガーラント郡 | 0.25% |
| シュコイディッツ市 | 0.25% |
| デーリッチ郡 | 0.25% |

ドレーズデン空港有限会社

ザクセンのハイテクと歴史への門戸：成長産業に欠かせないインフラ



アウトバーン、路面電車と都市電車の連絡交通機関で最適なアクセスを誇るドレーズデン空港は、ビジネスマンにも旅行客にも同様に利用されています。周辺には有数な半導体や製薬産業が、空港敷地内には航空宇宙産業の諸企業が、その拠点を置いています。そのどちらもが、貨物取扱量を継続的に増加させています。観光では、フラウエン教会や『緑の丸天井』など再建された町のシンボルが、国際的会議都市としての新しい姿と

並んで、航空旅客数を大幅に増やしています。チェコとポーランド国境を間近にした立地条件はさらに、これらの国々のEU加盟に伴う経済圏拡大により、同空港の可能性を拡大するものです。

代表取締役：ミヒャエル・フーペ博士

出資者：

| | |
|-----------|----------|
| 中部ドイツ株式会社 | 93.9960% |
| ザクセン州 | 4.8366% |
| マイセン郡 | 0.5837% |
| カメンツ郡 | 0.5837% |

ポートグランド有限会社

効率的で時間に正確、信頼できるサービス：DHLスタッフの養成もスタート

PORTGROUND
Aircraft Handling Services
UNTERNEHMEN DER MITTELDEUTSCHEN
FLUGHAFEN AG

ライプチヒ・ハレとドレーズデンの両空港にあるポートグランド社は、グランドハンドリングと貨物サービスにおける最高の品質を誇ります。300人以上の意欲ある専門スタッフ、最新型の車両と航空機グランドハンドリング用特殊装置によって、ポートグランド社は一年365日、日々24時間にわたってサービスを提供しています。貨物輸送便の増加に伴い、カーゴハンドリング業務の重要性は増えています。ポートグランド社はこのため、2006年7月1日からはこの業務を新規事業として立ち上げ、ライプチヒ・ハレ空港では例えば新ワールドカーゴセンター内に、格納庫のキャパシティを拡大する予定です。

DHLも同社のグランドハンドリングのノウハウを認めており、自社のスタッフを彼らのハブ空港となるライプチヒ・ハレ空港で訓練させています。4ヶ月にわたる研修プログラムは2006年4月にスタートし、2007年にも継続されています。

代表取締役：ディルク・ネーター

出資者：

中部ドイツ空港株式会社 100.00%

2006年度にハンドリングした航空機の数： 36,480

2006年にハンドリングした航空貨物の量(トン)： 21,808

イースタンカーゴ有限会社

東方ビジネスの貨物プロ

**EASTERN AIR
CARGO**

UNTERNEHMEN DER MITTELDEUTSCHEN
FLUGHAFEN AG

ライプチヒに本社を、フランクフルト(メイン)に支社を置くイースタンカーゴ社は数多くの航空会社の代理店として、運送や物流業からの顧客を、ロシアと独立国家共同体(CIS)にある100以上の目的地と結び付けています。ドイツ国内と西ヨーロッパのシャトルサービスや、ロシアの提携会社による密なトラック網が、安全かつ迅速でプロフェッショナルな貨物の輸送を保障します。ヨーロッパ中にある貨物受付網では、経済的で安価に貨物の動きが管理されています。ロシアでは独自のトランジットライセンスが、貨物の速やかな転送を可能にしています。このようにして、イースタンカーゴ社はわずか数年の間に、東方ビ

ネスの専門業者としての地位を築きました。多国語教育を受けたスタッフ、スムーズな貨物検査、配達証明、受取人への迅速な事前通告などが、成長しつつあるこのカーゴサービス会社のサービスの品質を実証しています。

代表取締役：シュテファン・ブランク

出資者：

中部ドイツ株式会社